



Shape the future
with confidence

EY Difference

キャリア案内 2025 定期採用

EY新日本有限責任監査法人



■ ■ ■
The better the question. The better the answer.
The better the world works.



Whenever you join,
however long you stay,
the exceptional EY experience
lasts a lifetime.

変化に向かって、皆さんの思いを一緒に実現していきたい

皆さんは今、ご自身の公認会計士のキャリアに関して、夢を大きく膨らませていることと思います。会計は日本国内のみならず世界の共通言語であり、自らを成長させ経済社会の森羅万象を理解し、そして社会貢献をするためにはこれほど素晴らしい職業はないと思います。

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス(存在意義)として掲げています。EY新日本は、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する監査法人です。また、EY新日本では、各メンバーがマイパーパスを持っています。EYのパーパスと個々人のマイパーパスの方向性を一致させて、各メンバーのWell-beingを高めるとともに、すべての活動や業務が、「より良い社会の構築」「経済社会の円滑な発展」に向かっていくような取り組みを実践しているところです。私のマイパーパスは「自身、法人、クライアントと共に真の成長を実現すること」です。マイパーパスは、文字通り個々人のものですので、例えば、「仕事もプライベートも楽しむ」というメンバーもいます。皆さんのマイパーパスはどのようなものでしょうか。マイパーパスとEYのパーパスを同時に実現することは本当にやりがいのあることです。

さて、このようなパーパスを掲げているEY新日本が求めている人材は、EYが掲げるパーパスへの理解があること、誠実であり高い倫理観を有していること、人的つながりの中での相互の敬意を前提として、専門家としての能力、環境変化への対応の柔軟性、プロアクティブなマインドなどの個性を有している方々です。当法人の監査業務やアドバイザリー業務は、すべてチームを組成してクライアントに提供しており、皆さんにはチームの一員としてご活躍いただけます。プロフェッショナルとしてご自身が十分なレベルに達しているかと心配されるかもしれませんが、研さん経験を積みながら自身の成長を楽しん

でいただき、クライアントそしてステークホルダーに頼られるトラステッド・パートナーとなっていただくことを期待しています。

皆さんも私たちを取り巻く環境が大きく変化していることを実感していると思います。

経済、生活環境、規制などは、年々加速度的に変化のスピードを上げています。デジタル技術の進化、気候変動、インフレ、金利上昇、リモート環境での業務の普及、地政学リスク、企業開示の拡充などさまざまな変化があります。このような変化に対して、監査法人はいかにあるべきでしょうか。一言で言えば、社会の期待に応えるべく「先んじて変化に対応する」です。デジタル技術の進化は、「すでに起こった未来」であり後戻りすることがないトレンドです。当法人では、次世代の監査・保証サービスを提供するビジネスモデルである Assurance 4.0を推進しています。また、サステナビリティへの取り組みの重要性が急速に高まる中、サステナビリティ経営から情報開示に至るまで、拡大するニーズに応えるため一貫したサービス提供が可能な体制を整えています。私たちは日本で最初の監査法人の系譜ではありますが、伝統にあぐらをかくことなく、先んじて変化へ対応すべくイノベーティブな監査法人であり続けていきます。

このようなEY新日本で、マイパーパスを持って一緒に変化に向かいチャレンジしてみませんか。その先で、皆さんの思いがEY新日本で実現できれば、これほどうれしいことはありません。これは私のもう一つのマイパーパスです。皆さんのマイパーパスをぜひEY新日本で一緒に実現していきましょう。

植木 貴幸

常務理事 経営管理副本部長 人材開発担当

Career map

キャリアマップ

本誌内に登場するメンバーが今まで経験した業務や分野をご覧ください。取り組めるフィールドは幅広く用意されています。それぞれが興味のある分野へと活躍の場を広げる中で、以降のページでは各メンバーが直近で従事している業務の一部をご紹介します。

◎は専門・得意分野 ●はこれまでに経験した業務・活動

※1 FAAS:財務会計アドバイザーサービス ※2 Forensics:不正調査・不正対策・コンプライアンスに特化したサービス
※3 CcAS:気候変動サステナビリティサービス ※4 TR:テクノロジーリスクサービス

本誌内掲載ページ	メンバー	事業部	職階	監査	金融	パブリック	グローバル	IPO	デジタル	FAAS ^{※1}	Forensics ^{※2}	CcAS ^{※3}	TR ^{※4}	地区	海外駐在	業種、業界
12.13	 E.Hattori	第1事業部	シニア	◎			◎		●						●	化学
14.15	 A.Hiraoka	第2事業部	パートナー	◎			◎	●	●							消費財、製造業、ライフサイエンス
16.17	 T.Shigeno	第3事業部	マネージャー	◎			●	●								製造
18.19	 Y.Ma	第4事業部	スタッフ	◎		●				●						石油、空港
20.21	 R.Iwata	第5事業部	シニア マネージャー	◎		●	◎	●	◎					◎		モビリティ(自動車)
22.23	 M.Hirakawa	金融事業部	スタッフ	●	◎											銀行
24.25	 S.Kato	FAAS事業部	マネージャー	◎	●		●	●		◎		●				建設、不動産、製造、商社
26.27	 S.Takahashi	Technology Risk事業部	シニア マネージャー	●	◎		●		◎	●				◎		テクノロジー、銀行、アセットマネジメント
28	 N.Ichihara	イノベーション推進部	パートナー	◎	◎		◎		◎						●	銀行、証券
29	 U.Arashida	イノベーション推進部	マネージャー	◎				●	◎							化学、テクノロジー
30	 S.Yamaguchi	EYストラテジー・アンド・ コンサルティング(株)	マネージャー	●	◎		◎			◎					●	金融(銀行、証券)
31	 Y.Kawaguchi	EY台湾事務所	シニア マネージャー	◎		●	◎	●	●	●	●	●			◎	建設、不動産
32.33	 T.Kashiwagi	金融事業部	シニア	◎	◎		◎		●						◎	銀行、証券、アセットマネジメント
32.33	 N.Kawashima	企業成長サポートセンター	シニア	◎	●		●	◎		◎						AI、広告、ゲーム、SaaS
32.33	 M.Ito	FAAS事業部	シニア	◎	●		●			◎				◎		製造、小売、外食
35	 H.Kinoshita	第2事業部	マネージャー	◎												消費財、テクノロジー
35	 A.Okado	第3事業部	シニア	◎			●	◎	●							製造、建設、小売 など

Career Rank

キャリアランク(職階)

EY新日本では、主体的なキャリア設計を可能にするロードマップとして、5つのキャリアを設定しています。キャリアに応じた役割を全うすることはもちろんですが、これからどのように成長していけるのかを常にイメージし続けることで、自身の成長を促し、高い専門性と人間性を身に付けたプロフェッショナルとして活躍してほしいと考えています。

各キャリアに
求められる役割

Staff スタッフ

上司の指導の下、監査実務はもちろんのこと、会計・監査に関する基本知識を習得します。カウンセラーとのコミュニケーションを通じて、キャリア目標に必要な経験を身に付け成長していきます。スタッフの上の年次では、小規模クライアントの主査となることもあります。



2022年入社
第4事業部
スタッフ
Y.Ma
P.18・19

Senior シニア

大規模クライアントの補助者として主査を補助するとともに、中小規模のクライアントにおいては主査として、現場を統括します。高い監査能力、知識のほかに、主査としてクライアントと良好な関係を保つことやスタッフの指導・育成も重要です。



2020年入社
第1事業部
シニア
E.Hattori
P.12・13

Manager マネージャー

大規模クライアントの主査として現場を統括します。大勢のシニア、スタッフの指導・育成やクライアントとの数多くの調整など、大規模クライアントならではの管理・調整能力も必要です。



2016年入社
イノベーション推進部AIラボ(第1事業部兼務)
マネージャー
U.Arashida
P.29

Senior manager シニアマネージャー

複数のクライアントの監査業務全般を統括します。高度な専門的知識はもちろんのこと、高いレベルの業務管理能力、問題解決能力も必要となります。



2005年入社、2021年再入社
Technology Risk事業部
(品質管理本部 非監査品質管理部兼務)
シニアマネージャー
S.Takahashi
P.26・27

Partner パートナー

法人の出資者であり、経営にも関与します。監査業務においては責任者として、クライアントに質の高いサービスを提供するために、高度な判断力が必要となります。



2007年入社
第2事業部
パートナー
A.Hiraoka
P.14・15

掲載メンバー

その他掲載メンバー



M.Hirakawa
P.22-23



T.Kashiwagi
P.32-33



N.Kawashima
P.32-33



M.Ito
P.32-33



A.Okado
P.35



T.Shigeno
P.16-17



S.Kato
P.24-25



S.Yamaguchi
P.30



H.Kinoshita
P.35



R.Iwata
P.20-21



Y.Kawaguchi
P.31



N.Ichihara
P.28

Career Paths

キャリアパス／キャリア形成

EY新日本では、監査業務のプロフェッショナルとしての成長を促進するだけでなく、個々の強みを生かした自立的なキャリア形成を支援しています。若いうちから国際的な視野を広げ、アドバイザーや外部機関での経験を通じて、監査以外にも多様な経験を積むことができる環境を整えています。変化の激しいビジネス環境においても活躍できるヒューマンスキル（人間力）を持ったプロフェッショナルの育成に取り組んでいます。

幅広い監査業務での経験を経て広がる多様なキャリア展開

真のプロフェッショナルとして成長できる環境



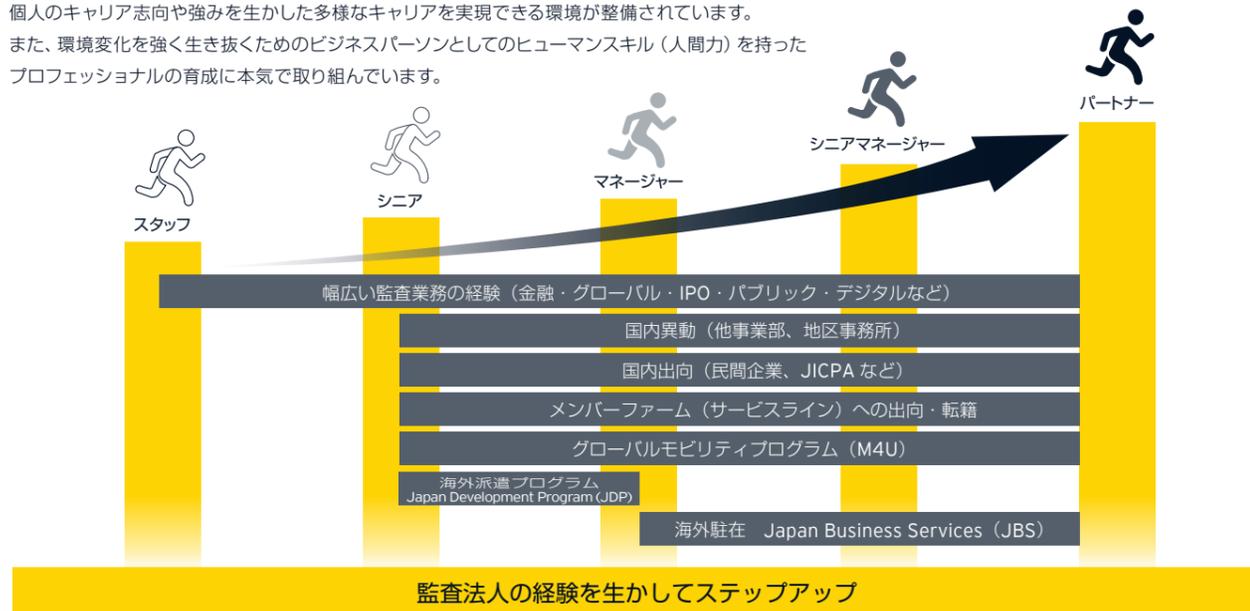
EY新日本は、あらゆるセクターの大規模から小規模のクライアントを抱えており、セクターフォーカスすることで高度なナレッジを蓄積しています。また、各事業部には複数のセクターがあり、どの事業部でも多様なセクターを担当する機会があります。各事業部においてIPOにも積極的に取り組んでおり、2020年から2024年までの5年累計でナンバーワンの実績とともに多くの若手メンバーが活躍しています。金融、サステナビリティ、デジタル、グローバルなプロジェクトなど、皆さんが興味を持つ幅広い経験を積むことができる組織編成となっています。これにより、実践的なスキルを身に付けるだけでなく、業界のトレンドやニーズを深く理解することが可能であり、真のプロフェッショナルになる環境が用意されています。キャリアの途中では、海外駐在や財務会計アドバイザーなどのアドバイザー部門への異動、さらには外部機関への出向など、多様な経験を積む選択肢も用意されています。これにより、国際的な視野を広げ、さまざまな文化やビジネス慣習を学び、また、監査にとどまらずアドバイザーのプロフェッショナルとしても成長できる環境が整っています。

自らのキャリアをオーダーメイドする

EY新日本でパートナーを目指す道以外にも、コンサルティングへの転籍、独立開業、一般事業会社の役員など、ビジネス分野で活躍している先輩や大学や専門学校で教育者として活躍する先輩、金融庁や会計検査院などの公的機関へ進む先輩など、多様なキャリアがあります。公認会計士としての可能性は無限大です。EY新日本では、皆さんが最も輝けるフィールドで、一流のプロフェッショナルとして活躍できる環境が整っています。自身のステージに合わせて受け身にならず、魅力的でチャレンジングな機会を追求し、自らのキャリアをオーダーメイドで築いていくことを期待しています。EY新日本であなたの未来を共に創造していきましょう。

キャリア形成イメージ

EY新日本では、監査業務のプロフェッショナルとしての成長にとどまらず、個人のキャリア志向や強みを生かした多様なキャリアを実現できる環境が整備されています。また、環境変化を強く生き抜くためのビジネスパーソンとしてのヒューマンスキル（人間力）を持ったプロフェッショナルの育成に本気で取り組んでいます。



クロスファンクショナル、グローバルでの経験を通じてプロフェッショナルとして成長できる環境

キャリアパス

キャリアの幅を広げる「国内」



- ▶ 法人内の他部門への一定期間の異動。監査以外の知識・経験を積む機会（品質管理、デジタル戦略、会計アドバイザー、不正対応、サステナビリティ保証業務、IPOなど）
- ▶ EY内での他のサービスラインへの出向（EYグループ内の連携に貢献）
- ▶ 日本を代表する大企業への出向（財務諸表の作成者側に立った経験）
- ▶ 公認会計士協会、財務会計基準機構などへの出向（会計基準や品質管理、リスク対応の専門家や会計のプロフェッショナルを目指す環境を用意）

EY内の幅広い経験

EYでは多様なキャリアアップの機会があります。法人内の他部門へ一定期間異動し、監査以外の知識や経験を積むことで、財務会計アドバイザーやサステナビリティ保証業務、不正対応やデジタル戦略など、幅広い分野における専門性を高めることができます。これにより、会計士としての総合的なスキルセットが強化され、クライアントに対してより価値のあるサービスを提供できるようになります。また、EYストラテジー・アンド・コンサルティングやEY税理士法人などEY内の異なるサービスラインとの人材交流も活発に行われています。EY内の連携強化につながるるとともに、各分野の専門家とのネットワークを構築し、クロスファンクショナルなプロジェクトに貢献することができます。こうした経験を通じて、クライアントに対して包括的なソリューションを提供することができる人材へと成長できます。

外部企業への出向で得られる専門性

EY内の異なるサービスラインにおける経験にとどまらず、外部企業への出向を通じてさまざまな経験を積むことができます。外部企業への出向は、ビジネスに対する理解を深めるための重要なステップとなります。クライアントのビジネスパートナーとしての役割を果たすためには、業界の動向やビジネスモデルを理解することが不可欠です。外部企業での経験を通じて、実際のビジネス環境における課題やニーズを把握し、クライアントに対してより的確なアドバイスを提供できるようになります。また、公認会計士協会や財務会計基準機構への出向を通じて、最新の会計基準や品質管理、リスク対応に関する知識を深め、それぞれの分野における専門家を目指すことができます。これらの経験を積み、専門家としての知識・経験を高めることで、クライアントに対して高品質なサービスを提供することができます。このようにEY新日本のモビリティ制度（異動）は、個々のキャリア成長を促進するだけでなく、クライアントに対しても高品質なサービスを提供するための重要なプラットフォームです。この制度を活用することで、会計士としての専門性を高め、ビジネスパートナーとしての役割を果たすための準備を整えることができます。EYでのキャリアを通じて、より多様な経験を積み、成長し続けることができるのです。

グローバル人材を目指す「海外」



- ▶ 海外のEYメンバーファームで多国籍なメンバーとグローバル企業に対するサービスの提供
- ▶ 全世界さまざまな国で駐在できる機会（約40カ国にわたり駐在員を配置）
- ▶ 駐在員として、現地ローカルの監査チームへの参加。非監査業務の獲得に向けた営業活動の経験
- ▶ 英語学習、さまざまな育成プログラムを用意。若手の海外チャレンジをサポート

グローバル人材を育むプログラムと充実したサポート体制

グローバルに活躍されたいメンバーを全力で支援する育成プログラムとサポート体制がEYには整っています。

- 若手向け海外派遣プログラム…各国のEYがメンバーを相互に受け入れ、現地での実務経験を通して能力向上およびネットワークの構築を目指す3カ月～2年間のグローバル人材育成プログラムです。
- 海外駐在プログラム…約3年間、海外各現地の監査チームメンバーや日本企業担当窓口としてグローバルサービスを提供します。
- グローバル人材育成プログラム…EY内での英語研修プログラムだけでなく、外部での学習費用の補助金など充実したサポート制度に加え、次世代リーダー育成研修（Elevateなど）を通じてグローバルで通用する人材を育成するためのプログラムも用意されています。

また、日本企業の海外事業展開をサポートするEYのグローバルネットワークがあるジャパン・ビジネス・サービス（JBS※）を組織し、EY新日本メンバーのグローバルベースのトレーニングや駐在の受け皿としています。※JBSの詳細については、法人案内の17ページをご確認ください。このようにEYでは、豊富な育成プログラムと充実したサポート体制により、グローバルに活躍したいメンバーを全力で支援しています。海外派遣プログラムや駐在プログラムを通じて、異国の文化に触れ、国際感覚を身に付けられる環境でボーダレスな専門家として活躍する環境が整っています。

チャレンジ精神でより良い社会を実現する

EYは、最先端の知見とテクノロジーを駆使し、グローバルな視点で社会に新たな価値を創造します。より良い社会の実現に向けて、私たちはチャレンジ精神あふれるプロフェッショナルを育てることを何よりも大切にしています。あなたの可能性と一緒に広げていきましょう。



成長への挑戦、 EYで描くキャリアの可能性

T. Fukata

1993年入社
経営専務理事 CFO/経営管理本部長

1993年にEY新日本(当時は太田昭
和監査法人)に入社、国際部で監査、
デューデリジェンス、バリュエーション
業務、NY駐在など、さまざまな業務を
経験。その後、外資系証券会社に転職、
社内会計士として勤務。EYに復職後は
IFRS導入支援などのアドバイザリー業
務の他米国SEC登録の大手金融機関の
監査責任者、FAASリーダーを務める。ア
ドバイザリーサービス本部長を経て現
職。休日一番の楽しみはゴルフ。

時代と共に進化する仕事

会計監査の仕事の魅力は、その多様性と成長の機会にあります。単なる数字のチェックではなく、企業の価値を多角的に理解し、支援できる仕事です。私たちは、金融機関、製造業、小売業など、さまざまな業界の企業と向き合います。それぞれの業界には独自の特性や課題があり、その本質を深く理解できるのが会計監査の醍醐味(だいごみ)です。監査を通じて、企業のビジネスモデル、組織体制、内部統制、ガバナンスなど、企業経営の全体像を学ぶことができます。法務、税務など、関連する多様な専門知識も同時に習得できます。監査業務自体も進化しています。特に昨今、ITやESG、気候変動といったサステナビリティ情報の重要性が急速に高まっています。企業価値はもはや売上や利益だけでは測れません。脱炭素への取り組み、ダイバーシティ、人権、テクノロジーリスクなど、新たな視点から企業を評価する時代になっています。会計監査は公認会計士にしかできない業務です。私たちは、それを強みに、会計監査のプロフェッショナルとして、時代の変化を敏感に捉え、新たな専門性を常に広げています。

無限に広がるキャリアパス

EYでは会計監査の仕事を起点に、さまざまなキャリアパスの可能性が広がります。EYには、監査・アドバイザリーサービスのアシュアランスの他、コンサルティング、税務、M&A関連の戦略・トランザクションの4つの主要なサービスラインがあり、監査業務を通じて習得したさまざまな専門性は、堅固な支えになります。また、EYはグローバルネットワークも強みとしているので、グローバルな活躍の場も豊富です。日本企業のグローバル展開に伴い、海外での業務機会も増えています。国内においても世界中のプロフェッショナルと協業できます。さらに、EYを飛び出して外の世界に挑戦してみた

と思うなら、一般企業の経理部門などで、財務諸表の作成者側になって専門性を生かしても、あるいはCEO、CFOになってもいいでしょう。また、監査業務は監査や会計といった基準に準拠しているかを判断する業務なので、ルールそのものをつくったり、変えていったりするために、行政官や政治家になるといった道もあります。自ら起業してIPOを目指す人もいますし、独立して個人事業主となる会計士もいます。大切なのは、どのような道を選ぶにしても、監査の知識と経験を土台として、常に新しいことにチャレンジする姿勢を持ち続けることです。そうすることで、より深みのある会計士として成長できます。EYでは、そうした姿勢を評価し、支援する風土があります。

人を大切にする文化

先ほど、EYで培った専門知識をもとに一般企業の社内会計士になる道もあると述べました。それはまさに私自身が一度は選択したことです。それでも私は結局、EYに戻ってきました。それは、EYで仕事をする面白さを再認識したからで、EYの風土の魅力として、その点について触れておきたいと思います。外資系の証券会社だったこともあり、私の転職先では、それぞれの専門家が自分の領域に特化して仕事をしていました。会計士は会計、税理士は税務、営業係は営業というように、役割分担が明確です。確かに専門性を極められる環境ではありましたが、逆に言えば、その領域以外のことには関わられません。一方、EYでは、会計監査という中核がありながらも、常に新しいものに触れられ、刺激に満ちています。世界レベルでさまざまな専門性を持った人材に出会うことができ、他社事例も豊富で、常にトレーニングを受けることができる環境です。さらには、公認会計士としてさまざまなクライアントと接しながら営業を

して、業務受注、契約処理、業務デリバリー、人材採用、育成、評価、その他、一見したところでは会計士の仕事とは関連性のないようなことにまで携わることができ、それらはすべて会計士としても、人としても、成長の糧になります。もう一つ、強調しておきたいEYの大きな特徴は、人を育てる文化があることです。転職してきた人からも、EYには教え合う文化があるという声をよく聞きます。EYでは、多種多様な経験を有するプロフェッショナルがお互いを尊重しながら、業務を通じて日々成長しています。

一人一人が輝く組織を目指して

今やEYはグローバルベースで約40万人、監査法人も6,000人を超える規模となりました。監査そのものも、業務量が以前とは比べものにならないくらい増え、複雑化しています。そうすると、膨大な監査業務に溺れてしまうのではないかと懸念もあるかもしれませんが。私たちは、そのようなスケールデメリットに陥ることなく、メンバー一人一人が生き生きと働ける組織であり続けるように、今後は標準化、シンプル化を一層推し進めるとともに、AIなどのテクノロジーを活用して時間を創出します。そこで手にした時間は自分の成長のために使ってください。加えて、さまざまな経験が積めるように監査、ファイナンス、サステナビリティといったキャリアフレームワークを整理して見える化し、必要な研修・トレーニングを充実させて、多様なキャリアを有する人材を増やしていきます。EYには「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」というパーパス(存在意義)があります。それを実現するために、私たちは、チャレンジ精神が旺盛で、より良い社会に世の中を変えていけるリーダーを常に輩出する組織にしていきたいと思っています。EY新日本への入社を目指す皆さん、ぜひ一緒に成長していきましょう。

メンバー紹介

2020年入社
第1事業部
シニア

E.Hattori



個人の夢と挑戦を尊重する柔軟な文化

国税専門官から会計士へ

私は大学で会計学を専攻していましたが、当初、会計士という職業は高いハードルに感じられ、まずは国税専門官を目指しました。東京国税局で1年勤務した後、やはり会計士になりたいという思いが強くなり、改めて勉強して資格を取得しました。EY新日本への入社を決めたのは、リクルーターの方の穏やかな雰囲気自分に合っていると感じたからです。入社後は第1事業部の化学セクターに配属され、産業ガスを扱う大手上場企業の監査に主に携わりました。入社時はちょうどコロナ禍でリモートワークとなりましたが、その中でも和やかな雰囲気が保たれていて、不安になることはありませんでした。現

在はシニアとして、現場の中心で作業をリードしています。シニアになってからは、スタッフとマネージャーの橋渡しをしながら、常に先を読んで行動し、率先してクライアントとコミュニケーションを取ることが求められるようになりました。責任が重くなった分、自分の成長も感じています。

周囲の支援を得て ニューヨークのEYに入社

私は入社3年目、配偶者のニューヨーク駐在に同行するため、EY新日本をいったん退職、ニューヨークのEYに入社しています。その際は、上司や人事の方々さまざまな可能性を模索し、履歴

書の添削や面接の練習なども手伝ってくださいました。ニューヨークでの1年9カ月の経験で、特に英語力が向上し、海外とのコミュニケーションについてこれまで抱いていた苦手意識が払拭されたのは、現在の仕事に大いに役に立っています。また、現地の上司から厳しいタイムライン管理を学び、自分の責任範囲をしっかりと意識して仕事を進める力が身に付きました。監査においても、基礎情報の検証方法などで、日本とは異なる視点を学ぶことができました。帰国後も元のチームに戻れるよう配慮していただき、メンバー一人一人を大切にしているEYの企業文化を実感しています。

個を大切にしている企業文化は、女性の働きやすさにも反映されています。周囲にも育児中で時短勤務をしている女性の管理職が多くおり、責任ある役割を果たしています。女性がプロフェッショナルとして仕事を続けられる環境が確立されており、自分のキャリアを考えるにあたって大きな励みになっています。

英語力と専門知識でさらに 貢献したい

海外勤務を経て、各国のチームとコミュニケーションを取って仕事をして、クライアントとEYに貢献できることにますます喜びを感じるようになりました。海外出張の機会を与えられることもあり、常に前向きに仕事に取り組んでいます。



目下の課題は、さらに深いディスカッションができるように、英語力を高めていくことです。EYには英語研修をはじめ、自己研さんを支援する制度が充実しているので心強いです。将来的には再び海外で働きたい気持ちもあります。上司から「シニアとマネージャーでは異なる視点を得られる」と聞き、職階が上がった際の新たな経験にも期待しています。また、セクターの専門能力を示す認定制度もあるので、それも活用して、セクター特有の知識を身に付け、複雑な会計処理や専門的な相談に、よりの確に対応できるようになりたいと思っています。特に化学セクターのクライアントは、原料を世界各地から輸入して、大規模かつグローバルに展開しているため、英語力に加えて、業界の専門知識があれば、より大きな価値が提供できると考えています。「Shape the future with confidence」のメッセージを自分にも向けて、自信を持って未来を形づくることのできるメンバーになることが目標です。

CAREER

2020年
入社。
第1事業部において、化学系上場企業およびその子会社の監査業務に取り組み。IFRS認定の取得やデジタル監査に積極的に関わるなどスキルアップに努めた。

2023年
シニア昇格。
配偶者がニューヨークのEYへ駐在となったため、EY新日本を一度退社。直接ニューヨークのEYに応募し入社。シニアインチャージとして日本企業の海外子会社の監査に従事。

2024年
配偶者の駐在期間が終了したため、EY新日本に再入社。もともといた監査チームに戻り、引き続き化学セクターエンゲージメントを担う。ニューヨークでの経験を生かし、海外関連業務に多く携わる。



第1事業部

FRS適用企業が多く、化学、製造、テクノロジー、総合商社などのセクターをカバーし、サステナビリティが身近なビジネスが多く集まっています。グローバル展開する大規模クライアントはもちろん、中小規模も含む多様な業種が経験できます。また、保証業務のみならず、アドバイザリー業務も経験するチャンスがあります。技術革新が早く、海外事業展開やスタートアップ企業も多い業界です。

メンバー紹介

2007年入社
第2事業部
パートナー

A.Hiraoka



くなったのは当然のことで、自分のチームのメンバーをどう育てていくか、クライアントとどう向き合うべきか、自分ならではのパートナー像を築くべく、取り組んでいるところです。実はマネージャー昇格を前にした頃、監査業務はもうやり切ったという思いから、自分が踊り場にいるような感覚になりました。当時の上司にそんな話をしたところ、ポジションが上がれば別の景色が見えてきて、実はまだ何もやり切っていないと気付くはずだというアドバイスをいただきました。その言葉通り、昇格するたびに仕事の幅が広がり、自分の視座は高くなっていくのを実感します。後輩の中には昇格することをためらったり、現状に閉塞(へいそく)感を抱いたりするメンバーも多いことでしょう。けれど思い切って一歩を踏み出すことで新しく得られるものは必ずあります。その意味でも私自身がロールモデルとなって、後輩の

ために背中を見せていきたいという思いを強くしています。

成長することで信頼に応える

ここ数年、EY新日本は大きく変わりました。特にデジタルツールの発達は目覚ましく、データの解析はツール任せ、私たちは解析結果の判断やクライアントとのコミュニケーションに、より力を入れるようになってきたと感じています。ガバナンスが企業の重要課題となった今、不正やセキュリティ上のリスクに対してクライアントは神経をとがらせています。その予兆を見つけ出す上でテクノロジーの活用は不可欠ですから、クライアントも私たちがどのようにデータを解析して活用しているのか、非常に高い関心を示しています。今後はリアルタイム監査の実現へと時代は進んでいくことになるので、私たちもテクノロジーに対する知見を磨き、クライアントの期待に応えていかななくてはなりません。さらに私の担当する消費財メーカーはサステナビリティ活動に対して積極的な取り組みを行っており、私たちも非財務情報の開示について今まで以上に踏み込んでいくことが求められています。挑戦すべきことは多く、さらに成長を続けていきたいと考えています。

CAREER

- 2007年
入社。
学生非常勤として監査第8部(当時)に配属され、4月に常勤となる。製造業や化学メーカー、ハウスメーカーなどの監査業務に従事。
- 2010年
シニア昇格。
中規模の上場企業などの主査を担当するとともに、IPO業務やリファラル業務にも従事。非監査業務や執筆活動などにも携わる。
- 2014年
マネージャー昇格。
監査業務に加え、事業部の品質管理活動やリクルーターとして採用活動に参加。法人代表として社外の「J-Win研修」に参加し、経験を積む。
- 2018年
シニアマネージャー昇格。
大規模消費財企業の統括主査を担当するほか、AQR部を兼務。「LEAP研修」にも参加。
- 2021年
長女を出産し、1年間の産休・育休を取得。
- 2022年
パートナー昇格。

キャリアアップとともに視座は高くなり、可能性も広がっていく

子育てしながらパートナーに

私にとって大きなターニングポイントとなったのは、入社14年目に長女を出産したこと、翌年にパートナーに昇格したことでした。産前・産後休業の取得直前、上司から「パートナーを目指してみないか」と打診された際は、これから出産・子育てを控えている私にはとても無理と思いましたが、休業中に自分のキャリアについて振り返る時間を持てたことで、せっかくのチャンスをもらったのだから挑戦してみたいと考えるようになりました。既にパートナーを目指す女性のための「LEAP研修」を受けて、他のサービスラインの女性メンバーから刺激を受けていたことも、私の背中を押してく

れました。EY新日本には子育てしながら働く女性が多いことから、復職に際しては何の心配や不安もありませんでした。母親として私の先輩になるメンバーも多く、子育てについてのちょっとした相談事なども気軽にできました。制度面でありがたかったのは「育児コンシェルジュ」です。特に保育園探しでは大いに助けられました。

ロールモデルとしての覚悟

復職してすぐにパートナーに昇格し、現在は大手消費財メーカーを中心に担当しています。マネージャー、シニアマネージャー時代よりも責任が重



第2事業部

✕ デビア系やエンターテインメント系、テクノロジーセクター、消費財など幅広い企業に監査およびアドバイザーサービスを提供。その中で消費財セクターは食品メーカーなどのクライアントを担当しています。身近な製品であるためにビジネスモデルを理解しやすく、監査の基礎を学ぶのに適したセクターとされています。

メンバー紹介

2013年入社
第3事業部
マネージャー

T.Shigeno



例えば、ある先輩は、大勢の前での発言が控えめになりがちなの傾向に気付き、もっと堂々と発言するように促してくれました。周りの人を巻き込むために、粘り強く、本気の姿勢で業務に臨むことが大切だということも先輩方から学びました。

個々の価値観や背景を尊重し、互いの違いをポジティブに受け入れながら協業するカルチャーがあることも、EYの素晴らしい点です。個人の状況に最大限配慮した働き方を尊重するカルチャーが根付いていると感じますし、若手マネージャーを対象にしたプログラムであるFuture Genで、バックグラウンドが異なるコンサルティング、税務、トランザクションなど他のサービスラインのメンバーと協働した経験からもそのように感じています。人との出会いが次の展開につながっていく、そんな環境がEYにはあります。一つの出会いを大切に、期待に応え、それがまた次の機会につながっていく、成長の機会を与えてもらっていることに、大変感謝しています。

経験とともに面白さが増していく

職階が変わるにつれて、業務内容は変わっていきませんが、コミュニケーションによる信頼関係がベースだと感じます。誰にいつ何をどのように伝えたら良いか、相手はなぜそれを今伝えてくれているのかなど、クライアントともチームとも対話をしっかりと重ねていくことが重要だと感じています。その対話の積み重ねから信頼関係が生まれ、クライアントやチームメンバーとより良い関係が構築できると感じています。



クライアントとの対話で意識していることは、数字の背景にある経営判断や課題を理解することで、長期的な視点を持って向き合うことを大切にしています。

チームメンバーに対して大切にしているのは、こまめなコミュニケーションです。早めに課題を共有し、メンバーが困っていないかを確認します。私自身の経験から、報告しづらい状況にあるメンバーほど早めの支援が必要と感じており、積極的に声をかけるようにしています。監査は一つのプロジェクであり、先を見越した先手のプロジェクトマネジメントが必須です。

これらは経験を積み重ねてきた角度から見ることができるようになり、それにも面白さを感じます。

監査はチームで行うもの。自らが良い働きかけをして、チームに良い影響が生まれればと思っています。だからこそ、まずは自らが進んで動くことを心がけています。クライアントやチームメンバーに対して真摯(しんしん)に向き合い、一緒に仕事をして良かったと思ってもらえるように、これからも日々の行動を意識していきたいと思っています。

CAREER

2013年
学生非常勤として入社。
幅広い業種に関わりたいという希望から、国内監査業務を志望。さまざまな規模の企業を担当、幅広い視点を養う。

2017年
シニア昇格。
スタッフ時代から担当させてもらっていたクライアントにインチャージとして関わる。新たに上場準備会社も担当。

2021年
マネージャー昇格。
製造セクターのワーキンググループメンバーとして活動。

2022年
EY Japanのタウンホールミーティングの企画・運営に携わる。「経営層に現場の声を伝える」をコンセプトに有志メンバーで取り組む。

2023年
若手マネージャーを対象にしたプログラムであるFuture Genに参加。さまざまなサービスラインの参加者とコラボレーションする機会に恵まれ、EYの魅力を確認。

2024年5月
USCPA取得。
現在は新たに製造業のクライアントと上場準備会社も担当。

人から人へ、良い連鎖が生まれる風土が魅力

刺激を受けながら成長

会計士を目指したのは、高校生の時に会計士の先輩が学校に来てくれたことがきっかけです。入社後は学生非常勤として第3事業部に配属され、製造業やテクノロジー業などのさまざまな業種の監査業務に携わりました。

シニアに昇格した2017年、担当クライアントの海外子会社買収案件で米国への出張を経験しました。それまで英語をほとんど使わずに仕事をしてきた私にとって、この出張は大きな転機になりました。先輩が流ちょうに英語でコミュニケーションを取る姿を見て、自分の英語力不足を痛感したのです。このままではクライアントサービスもチームマネジメントも十分にできないと感じ

じ、その後は英語力向上にも力を入れました。社内の語学研さんプログラムに積極的に参加し、フィリピンでの1カ月間の語学研修や社外の語学学校との提携プログラムなど、さまざまな機会を活用しました。2024年には米国の公認会計士の資格 (USCPA) も取得しました。現在はマネージャーとして複数の上場企業や上場準備会社の監査を担当、現場責任者を務めるとともに、若手の育成にも力を入れています。

人に恵まれたことが支えに

EYの最大の魅力は「人」だと感じています。私にとって特に魅力と考えるのは、私の課題を的確に指摘し、アドバイスをくれる先輩方の存在です。例



第3事業部

小 売業、外食業、製造業などの企業を幅広くカバーしています。生活に身近なビジネス、商材扱う企業の多いことが特徴で、棚卸立会など、公認会計士としての基礎的な業務を学ぶ上でも適しているといえます。大企業だけでなく、中小・中堅企業、IPOが多いことも特徴です。

MESSAGE

EYで
共に成長
しましょ

メンバー紹介

2022年入社
第4事業部
スタッフ
Y.Ma



自分の成長が、 より良い社会の実現につながっていく

パブリックセクターの実績で 群を抜くEY新日本

中学時代には産業としての農業に関心を抱き、大学の農学部では林業の研究に取り組みました。よく知られているように日本の林業は採算が取りづらいビジネスです。しかしサステナブルという側面では非常に価値の高い産業であり、業界でもESG投資に注目が集まっています。私は林業を学んだことをきっかけに非財務情報の開示に興味を持ち、公認会計士として関与したいと志しました。公認会計士ならではの専門性を発揮することで社会課題の解決に貢献できるのではないかと考えたのです。

EY新日本のパブリックセクターは豊富な実績と高い専門性を誇っています。一方で、すべての事業部においてパブリック、アドバイザリー、IPOなどを経験できる体制があります。公共機関の監査や非財務情報の保証のほか、一般事業会社の監査やアドバイザリー業務も経験したいと希望していた私にとって、多様な選択肢の中から主体的にキャリアを構築していける点は非常に魅力的で、EY新日本を選んだのは自然なことでした。

1年目から多様な経験を積んでいく

入社後は第4事業部に配属され、パブリックセクターの監査業務に従事しています。同時にエネ



ルギーセクターの業務も兼務。一般事業会社である石油関連の上場会社と子会社の監査業務に携わっています。エネルギー関連とあってサステナブル領域には敏感な企業であり、私もやりがいを持って取り組んでいます。パブリックセクターでの業務や非財務情報に関わりのある分野は入社前から希望していたので、担当できてうれしく感じています。パブリック領域では、監査業務を通じて私たちが指導的立場を発揮することが、一般事業会社以上に求められていることが多くあります。EY新日本ではこの領域での支援をさらに充実させるため、「パブリック・アシュアランス・センター」を設立。リーディングファームとしての基盤を一層強化させています。私は「パブリック・アシュアランス・センター」を

通して、宇宙ビジネス関連のアドバイザリー業務にも1年目から従事しています。この業務により、サービス業としてクライアントのニーズに応じていくということ、さらに強く意識するようになりました。これは監査業務においても重要な感覚だと受け止めており、バランス良く取り組むことができます。

より価値あるサポートのために

入社前、公認会計士は資料とパソコンを注視しながら仕事するというイメージでした。しかし実際は、クライアントにヒアリングし、アドバイスを送りながら進めていくという、人対人の仕事です。特にパブリックセクターの場合は、クライアントと二人三脚で、一緒に社会課題の解決に取り組んでいくという感覚があります。2年目には主査となり、担当クライアントの中で、より責任ある立場の方とコミュニケーションを取るようになりました。数字だけではつかみきれない、クライアントのリアルな事業像が把握できるようになったと感じています。今後も公共機関と一般事業会社の監査業務、アドバイザリー業務にバランス良く携わることで、

より価値の高いサポートを提供していきたいと考えています。また非財務情報開示の保証業務や海外駐在にも挑戦したいと思います。そして、こうしたキャリアを積み重ねていくことで、EYの掲げる「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して～」というパーパスに沿った貢献を目指したいと考えています。

CAREER

- 2022年
入社。
第4事業部配属。国際機関、私立学校の支援機関、一般財団法人などの監査業務に従事するとともに、石油関連の上場会社とその子会社も担当。リクルート業務やFAAS-GPSのアドバイザリー業務にも関与。
- 2024年
引き続きパブリックセクターと石油セクターにて、多様な業種の監査業務にコアメンバーとして携わる。空港会社の主査になる。



第4事業部

ライフサイエンステクノロジー（製薬・医療／精密機器など）、エネルギー（電力・ガス・石油など）、パブリック（地方自治体・学校・病院など）の3つのセクターにより構成され、多様な業種の監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラを支える非営利組織など、規模もマーケットも多様なクライアントに対して、多様性と専門性の両方を追求し、サービスを提供しています。



Y.Ma

2022年入社
第4事業部
スタッフ

2022年入社。パブリックセクターの豊富な実績と多様な選択肢が存在する点に引かれて、EY新日本に入社。第4事業部に配属され、希望通り公共機関と一般事業会社の監査業務に携わる。休日には、大学時代に取り組んでいたクライダースポーツを楽しんでいる。

メンバー紹介

2005年入社
第5事業部
シニアマネージャー
R.Iwata



ライフステージに合わせ、 しなやかに自分らしいワークスタイルを

退職後の復帰もスムーズ

夫の転勤に伴って地方の事務所への異動を希望したときも、復職したいけれど子どもがいるのでフルタイムで働くのは難しいと相談したときも、EY新日本は私の気持ちを受け入れて、私にとって最も良い結論を提案してくれました。働く仲間のことを大切にしてくれる、本当に素晴らしい組織だと感じています。

仙台事務所に異動したのは入社5年目。他業界で働く夫が転勤することになり、繁忙期が終わったから私も仙台に異動させてもらえないかと上司に相談したところ、翌月に異動できるように上司が調整してくれました。その後、夫の海外赴任に伴

い退職した後、再入社した際は、二人の子どもがいるため、当時の制度に基づいて週4日かつ短時間勤務の契約社員を選びました。一度は退職したにもかかわらず、受け入れてもらえるだろうかと不安だったのですが、部署全体で迎え入れてくれました。しかも復職初日、チームミーティングで盛り上がっている最中には「そろそろ退社時間では」と、時短勤務の私にメンバーが声をかけてくれました。細やかな心遣いに、とても温かい職場だと感じました。

デジタルで激変した仕事環境

大手監査クライアントが多いことに引かれて

入社したEY新日本。入社1年目から大手自動車メーカーの会計監査を担当し、現在も自動車業界の大手部品メーカーを担当しています。この間の環境の変化は大きく、特にデジタルツールは監査の業務を劇的に変えました。以前ならば会計上のリスクを発見するのは簡単ではなかったのですが、デジタルツールのおかげで全体を俯瞰(ふかん)しながらより早くリスクを見つけられるようになり、それが監査の品質を大きく上げてくれたと感じます。またEYグローバルで進められているテクノロジーを活用したデータ分析(データドリブン監査)と監査メソッドロジーとが融合した監査手法(D-GAM)の運用は、EY新日本でも既に開始しております。これは、私たちがEYグローバルの一員であることを以前よりも強く意識させられることにもつながっています。

海外駐在に挑戦したい

今最もホットなワードは、サステナビリティです。上場企業に非財務情報の開示が義務付けられるなど、私たち公認会計士にもサステナビリティ関連の専門知識が求められるようになりました。私自身も外部の研修などを通じて学んでいかななくてはならないと感じていますが、今後はこの分野で強みを持つ人材がEY新日本のドアをノックして入社されるケースが増えるのではない



でしょうか。EY新日本ならではの多様性に、さらに拍車がかかりそうです。こうした変化には、EY新日本のパーパスである「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」が導入されたことも背景の一つとして挙げられるでしょう。初めて耳にしたときは、なんて壮大なパーパスだろうと驚いたものでした。一人一人が自分のパーパスを大切にすることで、EY全体としてのパーパスの実現につながっていくという思いは、仕事のモチベーションに反映されています。私が一度EY新日本を退職したのは、夫の海外赴任に伴うためでした。そのときの経験を生かし、今度は私自身が海外駐在に挑戦したいと考えています。国内企業の監査業務でも、海外とコミュニケーションする機会が大幅に増えました。この希望もかなうよう、もっと精進したいと思っています。

CAREER

- 2005年入社。大手自動車メーカーの会計監査を担当。先輩の指示に従い、真摯(しんしん)に取り組む。
- 2008年シニア昇格。引き続き大手自動車メーカーの会計監査を担当。
- 2010年夫の転勤に伴い、仙台事務所に異動。幅広い業種の監査を担当。
- 2012年夫の海外赴任が決まり、1歳の息子とともに帯同するため退職。その後、二人目の子どもが誕生。
- 2017年帰国後、子どもの保育園が決まってから、契約社員としてEY新日本に再入社。
- 2020年正社員に転換、マネージャー昇格。主に自動車業界のクライアントの監査を担当。
- 2023年シニアマネージャー昇格。



第5事業部

主に自動車業界と不動産関連のクライアントを中心に監査を担当しているのが第5事業部です。部内ではセクター(業種)別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。

メンバー紹介

2023年入社
金融事業部
スタッフ

M.Hirakawa



M.Hirakawa

2023年入社
金融事業部
スタッフ

2023年入社。10歳から15歳までシンガポールで過ごす。会計士を目指したきっかけは、高校の正門前で受け取った専門学校の特典。昔お世話になっていた学習塾と予備校の名前が同じで運命を感じ、勉強を開始。大学時代はコロナ禍だったため、自宅で勉強に励んだ。仕事をする上で心がけているのは、常に相手の立場になること。休暇には友人や同僚と国内外を旅行するのが楽しみ。

あたたかい目で「出る杭を伸ばす」

人の魅力に引かれて入社

大学3年生の時に学生非常勤として入社しました。EYを選んだ最大の理由は、就職活動中に出会った方々の魅力で、特に影響を受けたのは、現在の所属チームの女性マネージャーです。その方の前向きで誠実かつプロアクティブな姿勢に憧れを抱き、「私もこの方のようにになりたい」と強く思いました。また、その方に20名近くのチームメンバーを紹介していただき、その全員が素晴らしい人柄だったことも大きな決め手となりました。金融事業部を希望したのは、さまざまな業界との接点を通して、幅広く知識と経験が積めると思ったからです。

早くから仕事を任せられる手応え

私は入社以来、大手金融機関グループの監査を担当するチームに所属し、主に固定資産などの科目を中心に監査を学んでいます。また、銀行特有の自己査定監査も担当し、金融監査ならではの専門性の高い業務にやりがいを感じています。常勤にあがり、仕事の範囲は大きく広がり、自己査定監査に関しても徐々に難しい案件も任せられるようになりました。また、監査の一連の流れを取りまとめる役割のある総括チームにも所属し、さらに、グループ子会社の初年度監査も担当することになりました。特に印象に残っている経験は、グループ子会社での税務関連の業務です。私自身、税務は得意

分野ではありませんでしたが、クライアントに対して会計基準や処理方法を丁寧に説明する必要があり、大きなチャレンジとなりました。経験豊富な方々の前で、緊張しながらも自分なりに工夫して説明した結果、「説明してもらってクリアになった」と言ってくれたことは、本当にうれしかったです。

リクルート業務も担当し、金融事業部の仕事の面白さを伝えるイベントの責任者も務めました。チームやセクターの垣根を越え、延べ30名以上の同期や先輩方にご協力いただき、パネルディスカッションや座談会を企画・実施することができました。参加者からも好評で、このイベントがきっかけで入社したという後輩も迎えることになり、どれかの決断のきっかけになれたことがうれしく、頑張った良かったと心から思いました。また、イベントを通して、チームやセクターを超えたつながりに日々支えられているということを実感し、縦のつながりだけでなく、斜めや横のつながりの強さもEYの魅力であると改めて感じました。

挑戦する若手を支援する姿勢

EY新日本の「出る杭を伸ばす」文化は、自分の経験を通して実感しています。例えば、自己査定監査で難度の高い案件に挑戦したいと手を挙げた



際、励ましの言葉と共に任せていただきました。同様に、常勤1年目にリクルートイベントの責任者をやってみないかと声をかけられた時も、思い切って引き受けると、決して任せきりにはせず、サポートをいただきながら成功させることができました。一つ一つの経験の中で、性別や職階問わず輝ける環境があることや、若手の頑張りをあたたかく支援してくださる姿勢があることもまた、EY新日本の大きな魅力だと感じました。この恵まれた環境で、これからも貪欲にチャレンジし、自分自身も成長しながら、周囲に貢献していきたいと思えます。そして最終的には、私が就職活動中に素晴らしい女性マネージャーに出会って刺激を受けたように、「女性が活躍できる組織」であることを多くの方に知っていただける存在になり、一人でも多くの就活生を勇気づけられたらと考えています。



CAREER

2023年
大学3年生で公認会計士試験に合格、学生非常勤として入社。メガバンクチームの一員として、固定資産系の科目や人件費関連など、金融専門の科目を扱うチームではないところからスタート。リクルート業務にも携わる。

2024年
4月に常勤に切り替え。引き続き、固定資産系のチームで監査の経験を積みながら、自己査定監査を通じて金融監査の魅力を感じ始める。リクルート業務では、「金融入門」という若手中心の金融事業部リクルートイベントの責任者を務める。7月からは固定資産系チームに加え、監査業務の一連の流れを取りまとめる総括チームと、新設されたグループ子会社およびAUP(非監査業務)チームを兼務し、初めての繁忙期を迎える。



金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、業界において優れた実績を長く持つ総合的な金融サービスを提供。EY新日本の強みであるグローバル業務やアドバイザー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多彩な業務経験や高い専門性を得られる領域があります。業界の卓越したサービスを提供しているEY新日本に所属する公認会計士のキャリアの可能性もますます広がっています。

メンバー紹介

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー
S.Kato



S.Kato

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー

専門性を身に付けて、女性として長く働きたいと考え、公認会計士に。入社後、金融事業部で主に大手証券会社の会計監査に従事。4年目にシニア昇格。5年目に自ら望んでFAAS事業部に異動。幅広い業種の企業の決算支援やIFRSなどの新基準導入支援に携わる。8年目にマネージャーに昇格し、現在に至る。

自らの意志と行動で、キャリアの道を開いていく

クライアントに寄り添いながら

私の所属するFAAS事業部では、クライアントの経理・財務部門への多様なサポートを行っています。クライアントは金融以外の幅広い業種にわたり、比較的中規模の企業が中心です。具体的な業務としては新しい会計基準の導入支援や決算業務の効率化に向けた会計システムの導入など幅広く、クライアントによって異なります。会計監査は年間を通じて取り組む業務が決まっているのに対し、FAAS事業部での業務はクライアントごとにカスタマイズされたサービスを提供していることとなります。そのため、よく「FAAS事業部では何をしているのですか」と問われても、一言では説明しづらいというのが私の実感です。会計監査は売上などの

過去の数字を見る仕事であるのに対し、FAAS事業部ではクライアントと一緒にこれから数字をつくっていくための準備を進めます。入社して数年間会計監査に携わっていた経験から、こうした立場の違いは強く実感しており、それがやりがいにつながっています。

キャリアチェンジを支援する風土

私が会計監査からアドバイザーへのキャリアチェンジを意識するようになったのは、入社4年目にシニアに昇格し、Fintech企業へのIPO支援に携わったことがきっかけでした。それまで私は大手証券会社を担当していたのですが、Fintech企業は規模も小さく、企業としての体制づくりも十



分ではなかったもので、上場準備を通じてさまざまな整備を支援しました。自分の携ったことがクライアントの成長にダイレクトにつながるという手応えは心地良く、本格的にアドバイザー業務に携わってみたいと思うようになりました。EY新日本の魅力の一つが、部門の違いを超えて異動するモビリティを積極的に推奨する文化です。ただ、黙っていてもモビリティのチャンスは得られません。私も次の目標が見つかったという思いで、異動に向けて自ら動き始めました。具体的にはアドバイザー業務に携わっている幅広い階層の先輩社員を人づてに紹介してもらい、仕事のやりがいなどについて聞かせていただいたのです。中にはパートナーもいらっしゃったのですが、多忙な中でも快く時間を取って私の相談に乗ってくれました。EY新日本では、パートナーは決して雲の上の存在ではないのです。このように自ら手を挙げてチャレンジしようとする姿勢があれば、部署や職階の違いを超えて背中を押してくれるのがEY新日本の仲間たちです。こうした取り組みを経て私は、入社5年目にFAAS事業部に異動し、アドバイザーとしての新たな一歩を踏み出すことになりました。もちろんFintech企業へのIPO支援の経験からIPO

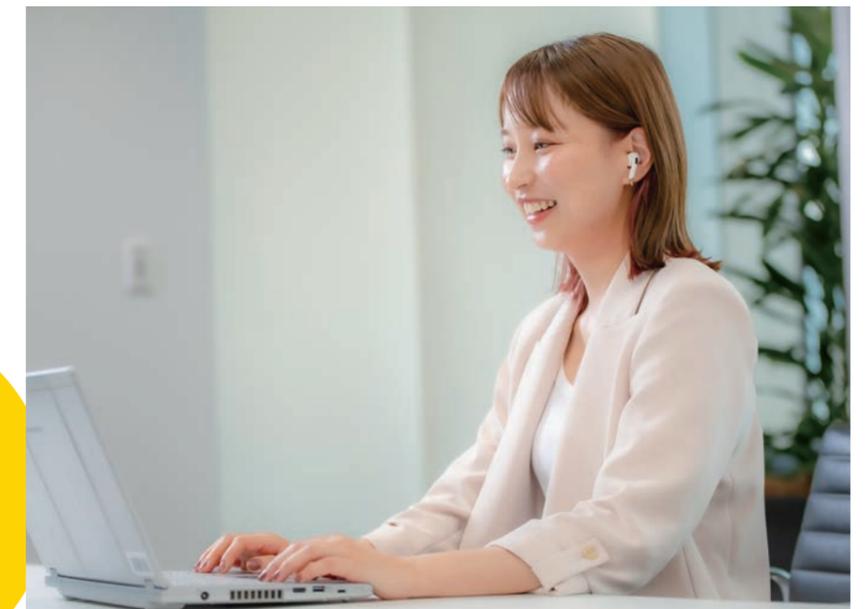
の専門家を目指したいと思ったなら企業成長サポートセンターへの異動もあり得ましたし、そのまま金融事業部で公認会計士としてのスキルをさらに磨いていくこともできたでしょう。キャリアの選択肢が豊富で、しかも自らの意志で決定していけることは、EY新日本の素晴らしい点です。

管理職としてのチャレンジ

入社8年目にマネージャーに昇格しました。個人的にはまだ早いのではと感じたものの、チャレンジする姿を後輩たちに見せることでいい影響を与えられたらという思いもあって、踏み切りました。管理職となったことで視野が広がって組織全体を見るようになり、また、スタッフのマネジメントをすることで育成への意識が高まるなど、自分なりの成長を実感しています。FAAS事業部には、事業部の課題を話し合っパートナーに提言するShadow Boardという取り組みがあり、私もそのメンバーとして参画。既にいくつかの提言を通じて業務環境の変革に関わりました。Shadow Boardでは若手、中堅の違いを意識することなく自由に議論を交わしており、こうしたオープンな場があることは素晴らしいと感じています。今後は管理職として力を磨き、より魅力ある環境づくりを通じてチームや職場に貢献していきます。また、海外案件に関わる機会が増えてきたので、将来的には海外駐在にもチャレンジしたいと考えています。この先も自分らしいキャリアを切り開き、挑戦を楽しみたいです。

CAREER

- 2016年
入社。
金融事業部に配属となり、主に大手証券会社の会計監査に従事。
- 2019年
シニア昇格。
Fintech企業へのIPO支援などにも携わるようになり、アドバイザー業務に興味を持つ。
- 2020年
FAAS事業部に異動。
決算支援やIFRSなどの新基準導入支援に従事。
- 2023年
マネージャー昇格。
管理職として部下のマネジメントを担うようになる。同時に、事業部の課題を話し合っパートナーに提言する組織であるShadow Boardにも参加。より広い視野を持つようになる。



FAAS事業部

FAAS事業部 (Financial Accounting Advisory Services: 財務会計アドバイザーサービス) は、クライアントのCFOや経理・財務部門のパートナーとして成長戦略をサポートしています。新会計基準の導入支援、決算プロセス変革支援、管理会計の高度化支援、会計DX支援など、幅広いサービスを提供し、課題解決に貢献しています。

メンバー紹介

2005年入社
(2021年再入社)
Technology Risk事業部
シニアマネージャー
S.Takahashi



未知の IT 領域に会計士として向き合う面白さ

技術とビジネスの専門家集団

テクノロジーの発展に伴い、かつては考えられなかった新しい課題が次々と発生しています。業務オペレーションが高度化・自動化されている今日では、会計領域のみならず、IT領域の評価も必須です。Technology Risk (TR) 事業部はテック企業を中心に、ITガバナンスや内部統制の観点から、リスクを総合的に評価しています。こういったリスクは、もはや単なる技術的問題ではなく、企業の存続に関わる重要な監査対象です。私はシニアマネージャーとして、セキュリティに関する内部統制の保証業務やアドバイザリーサービスを提供しています。エンゲージメントチームを指揮し、手続き結果から導かれる問題

点や改善ポイントについてクライアントとコミュニケーションを行います。

TR事業部は、技術的な知見とビジネス理解の両方を持つ人材が集まっています。テクノロジーのエキスパートも多数所属するプロフェッショナル集団なので、上司・同僚・後輩の垣根なく、協力して課題に向かっています。

転職先でITリスクの重要性を認識

私は学生時代からITに興味があり、就職に際しても会計士になるか、IT関連の仕事に就くかで悩んだほどです。結局、前者を選び、EY新日本に入社してからは、主に金融事業部で、メガバンクグループの米国上場支援や金融機関向けの保

証業務に携わりました。その経験をもとに、私はじつは入社13年目にEYをいったん退職、大手金融機関に転職しています。

転職先では、銀行、信託、証券、カードなどグループ全体の監査を行いました。その一環として見ていた銀行のガバナンスには、IT領域も含まれていました。そこでITリスクの重要性を強く認識することになります。例えば、サイバーセキュリティの脆弱(ぜいじゃく)性、AIによる意図しない判断、データ管理の複雑化、システム障害のリスクなどです。かつては人間の手作業によるミスが主なリスクでしたが、それは高度に発達したITシステム自体が引き起こす、予測不能な問題に急速に取って代わられていました。こういったことを目の当たりにして、自分の中でITへの興味が再び強くなっていました。

会計とITは不可分の関係

私は2年8か月、その金融機関に在籍し、グループ全体を俯瞰(ふかん)する力やビジネスの理解を深めるなど、貴重な経験を積むことができました。しかし、一つの組織の業務に限定されることなく、会計士としてより広い視野でキャリアを追求したいという思いから、最終的にEYに戻ることを決意しました。EYには、一度飛び出しても、またあたたかく迎えてくれるカルチャーがあり、これはEYの魅力の一つだと思います。再入社後は、かつて在籍していた金融事業部に



戻りましたが、ITに関わりたい気持ちは強く、また折しもTR事業部がEYストラテジー・アンド・コンサルティングからEY新日本へ移管になるという流れもあり、再入社して3年目に自ら希望してTR事業部に異動しました。異動に向けては、公認情報システム監査人(CISA)の資格も取得しました。

現在は、常に発展する分野で、自分自身を少しずつアップデートしながら成長できることにワクワクしています。未知の領域に挑戦できる面白さは格別です。クライアントとの対話で、これまで培った会計とビジネスの経験を生かしながら、ITの課題に対して納得感のある提案ができた時には、大きな手応えを感じます。これからの時代、会計とITは切っても切れない関係にあると言っていいでしょう。むしろ、ITの知識は会計士にとって大きな強みになります。会計とITの両方に興味がある人を仲間を迎えることを楽しみにしています。

CAREER

- 2005年入社。監査1部に所属。国内大手メーカーなど会計監査業務に従事。
- 2006年国際部(現金金融事業部)に異動。メガバンクグループの米国上場支援に従事。大手企業の業務について知見を得る。
- 2007~18年金融機関向け保証業務に従事。国内・外資系企業のエンゲージメントマネージャーとして業務を統括。グローバル展開する企業のオペレーションについて知見を得る。その間、2008年、シニアに昇格。2011年、マネージャーに昇格。2015年、シニアマネージャーに昇格。
- 2018年大手金融機関に転職。IT領域も含めビジネス全体へのガバナンスについて知見を得る。
- 2021年再入社。金融事業部でファンド監査や金融機関向けの保証業務、非監査業務の品質管理などを担当。
- 2024年TR事業部に異動。



Technology Risk事業部

主にビジネス上のテクノロジーリスクにフォーカスしたAssurance関連業務とアドバイザリー業務の2つの領域でサービスを提供しています。主たる業務であるAssurance関連業務では、会計監査におけるIT内部統制の有効性評価やデータアナリティクス、各種保証・認証業務を行っています。監査業務でさまざまな経験や知見を得ることができ、それをベースにアドバイザリー業務に生かしていくことができます。さらに、アドバイザリー業務で得た経験や知見を、監査の高度化などにつなげています。

メンバー紹介

2003年入社
イノベーション推進部
パートナー
N.Ichihara



MESSAGE

プロフェッショナルとしての
キャリアは是非EYで!

メンバー紹介

2016年入社
イノベーション推進部AIラボ
(第1事業部兼務)
マネージャー
U.Arashida



MESSAGE

新たな一歩を
共に踏み出そう!

CAREER

- 2003年 入社。国際部(当時)に配属。
- 2007年 シニア昇格。
- 2009年 マネージャー昇格。EYのニューヨーク事務所に赴任。
- 2011年 帰国し、金融事業部に所属。
- 2014年 シニアマネージャー昇格。
- 2016年 2014年から通った大学院で修士課程修了。
- 2018年 パートナー昇格。
- 2020年 アシュアランスイノベーション本部の立ち上げに携わる。

N.Ichihara

2003年入社
イノベーション推進部
パートナー

理系出身としての強みを生かし、デリバティブ評価とリスク管理に焦点を当てた監査・保証業務のクオンツ(数理分析の専門家)として経験を重ねる。12年目には大学院で経済学修士号を取得。早くからデジタル会計時代を見据えた独自モデル、アルゴリズムの開発に取り組む。休日は家族との時間を大切に、二人の子供とも遊ぶ時間を楽しんでいる。

イノベーションの先陣を切る

世界に先駆けた対応と実績

テクノロジーの急激な進化が、社会やビジネスのあり方を一変させています。会計監査も同様です。EYではAIなどのテクノロジーを活用した次代の監査を目指すイノベーションに取り組んでいます。その中で私は、AIをリスクの識別やデータの分析に活用するための監査ツールのプロダクト開発を行うチームを率いています。監査のデジタル化については大手ファームを中心に多くの監査法人が意欲的に取り組んでいます。EYの強みは、群を抜く先進性にあり、2016年には機械学習のアルゴリズムを用いた独自の不正会計予測モデルを構築し運用を開始しました。これは世界レベルでもトップクラスの早さでの取り組みでした。2017年には仕訳の異常検知の運用を開始し、今では多くの監査現場で利用が進んでいます。こうした先駆的な取り組みは研究やパイロットの段階ではなく大規模な利用に耐えられるシステムとして運用されているのもEYならではの特徴です。

よりエキサイティングな領域へ

グローバル化が進む時代に英語力が必須と言われ

イノベーション推進部

AIを含む先端テクノロジーを用いた分析ツールや自動化ツールの開発および開発したツールも活用しながらアシュアランス業務のデリバリー・データ分析を実施しています。事業部と連携し、アシュアランス業務の業務革新を推進しています。



たように、これからのデジタル監査の時代においてテクノロジーのスキルや統計・数学のリテラシーは必須となるかもしれません。入手できる情報がますますリッチになっていく中、情報を十分に活用するためにはこういったスキルやリテラシーによりデータを見る解像度を劇的に上げる必要があるからです。膨大なデータを自在に分析・活用し、より深く監査を行うような未来では、公認会計士がかつてないほどエキサイティングな職業になっているでしょう。皆さんにはこうした未知の世界に足を踏み入れることを恐れず、むしろ未踏の領域を切り開いていくことを楽しんでいただきたいと思います。これから公認会計士としてスタートを切る皆さんにとって、この上なく大きな成長を手に行ける環境がここにあります。

CAREER

- 2016年 入社。大学3年生の時に学生非常勤として入社し、第1事業部に配属される。製造業やソフトウェア業などの企業の会計監査のほか、IPO業務にも携わる。
- 2020年 シニア昇格。テクノロジーを利用した新しい監査手法に触れる中、デジタルを利用した監査に強い関心を持つようになる。
- 2021年 AIラボに異動。主に売上取引異常検知ツールの企画開発などを担当。
- 2023年 第1事業部兼務となり、AIラボで監査ツールの開発業務に携わりつつ、中規模上場会社の会計監査も主査として担当。
- 2024年 マネージャー昇格。

U.Arashida

2016年入社
イノベーション推進部AIラボ(第1事業部兼務)
マネージャー

業界内でいち早く変革に取り組んでいる姿勢に共感し、EY新日本に入社。大学3年の冬より学生非常勤として週に2日程度勤務し、経験を積む。入社後は第1事業部で製造業などの会計監査を担当。4年目に自ら希望してAIラボに異動し、監査ツールの開発に取り組む。6年目より第1事業部兼務。

監査とテクノロジーの架け橋として

公認会計士がツール開発に携わる意義

AIを活用した監査ツールの開発などを行っているAIラボで私が担当したのは、売上取引異常検知ツール「SLAD」の開発です。不正リスクの高い取引を検知するツールが「SLAD」ですが、開発側のデータサイエンティストなどはその判断精度を上げることに注力しがちなのに対し、ユーザー側の公認会計士はシロヤクロの判断の背景を知りたい傾向にあります。こうした考え方の違いが生み出すギャップを埋めることが、公認会計士の経験を持つ私の役割です。「SLAD」リリース後はユーザーに意見を聞き、開発側にフィードバックしてアップデートを繰り返す、うまくユーザーの意見を取り入れたツールに仕上げることができました。私ならではのバックグラウンドを生かして開発したツールを実際に監査チームが使ってきているのは大変うれしく、監査品質の向上に貢献できていると自負しています。

監査と開発に軸足を置く

文系出身の公認会計士として入社した私が今はAIを活用したツールの開発に携わっているのですから、ま

イノベーション推進部AIラボ

監査ツールをはじめ次代の監査・保証サービスの実現を目指して、2020年にAIラボが発足。AIを含む先端テクノロジーを用いたアシュアランス業務の研究、ツールの開発を担っています。「EY Helix GLAD」に搭載された会計仕訳の異常検知技術は特許を取得しました。



さに想定外の未来が待っていたという思いです。会計監査に携わる中で新しい監査手法に興味を抱き、自ら希望してAIラボに異動したことでかなえられた未来像でした。当時所属していた第1事業部の仲間も私の異動を応援し、快く送り出してくれました。現在は第1事業部に復帰し、AIラボとの兼務で会計監査にも携わっています。これも会計監査の課題を自らの実体験として感じることを、より現状に即したツール開発のためにフィードバックしたいという思いからです。監査と開発の両方に軸足を置いている、とてもバランスの良い状態だと感じています。会計監査のDXでEY新日本は、常に先駆的な取り組みで卓越したサービスを提供してきました。今後の変革に向けて、私もさらなる貢献をしたいと考えています。

メンバー紹介

2010年入社
EYストラテジー・
アンド・コンサルティング(株)
(金融事業部FAASから出向)
マネージャー
S.Yamaguchi



MESSAGE
EYであなたの
可能性を広げませんか？

メンバー紹介

2011年入社
EY台湾事務所(出向)
シニアマネージャー
Y.Kawaguchi



MESSAGE
Shape Your Future
with EY

CAREER

- 2010年入社。金融事業部INS(生命保険会社監査チーム)にてJGAAP会計監査・JSOX内部統制監査に従事。
- 2013年金融事業部BCM(銀行・証券会社監査)へ異動。大手グローバル本邦証券会社の会計監査に従事し、子会社主査を経験。
- 2015年シニアに昇格。
- 2019年マネージャー昇格。EY UK エンジンバラ事務所へ駐在。UK GAAP・IFRS会計監査に従事。
- 2021年帰国後金融事業部FAASに所属。金融機関に対する内部統制支援を中心にアドバイザー業務に従事。
- 2022年EYストラテジー・アンド・コンサルティングへ出向。国内金融機関への内部統制支援、会計コンサルティングなどを担当。

S.Yamaguchi

2010年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)
(金融事業部FAASから出向)
マネージャー

2010年入社。入社を決めたのは、全体的に温かな雰囲気を感じられたから。その印象は入社後も変わらず、常に居心地の良さを感じている。趣味は茶道と旅行。茶道は会社の茶道部に所属しており、月1回は練習に参加する。休暇には国内外に旅行して気分転換を図る。

さまざまな選択肢がある環境、ビジネス理解を深める出向

メンバーファームで貴重な経験を蓄積

現在は、EYストラテジー・アンド・コンサルティング(EYSC)に出向し、主にマネージドサービスを担当しています。マネージドサービスとは、クライアントにとって中核ではないものの取締役会にとって重要な業務をサポートし、企業の業務効率化を目的とする期待成長分野のサービスです。私はPMO*として、グローバルに、クライアントをはじめとする社内外の各分野の専門家間の連携や予算管理、品質確保などにあたっています。クライアントの要求水準が業界でも非常に高く、厳しい場面もありますが、チームで成果を上げた時の喜びはひとしおです。マネージドサービスはEYのグローバルネットワークの重点領域の1つで、標準化による成長が期待されています。監査法人でも幅広く展開可能なので、出向中にノウハウを構築し持ち帰りたいと思っています。

*PMO: Project Management Office(プロジェクトマネジメントオフィス)

豊富な選択肢からキャリアを構築

EYでは、個々の思い描く方向性が尊重される環境があります。私はビジネスの理解を深めるため



EYSCへの出向を希望し、現在その興味が満たされていることに手応えを感じています。業務内容はもちろん、監査法人とは雰囲気まったく異なり、別の会社に転職したような感覚があり、出向でそのような経験ができるのは貴重です。キャリアの選択肢は多様で、私のようにメンバーファームで会計監査以外のさまざまな仕事にチャレンジすることができるほか、官公庁や一般企業などに出向する機会もあります。グローバルなつながりが強いのも特長で、私は入社10年目にEY UKのエジンバラに駐在しました。私の場合、最初から長期的な目標があったわけではなく、キャリアを築きながら進むべき道を模索してきました。その都度、EYには多様な選択肢があり、周囲のサポートを得られたことに感謝しています。今後はこれまでの経験を生かして貢献していきたいです。

EYストラテジー・アンド・コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングはEYのコンサルティング部門とトランザクション部門が統合して誕生した総合コンサルティングファームです。EYグループの一員として戦略立案からM&A支援、DX推進までをワンストップで提供しています。

CAREER

- 2011年入社。幅広い業界の監査業務、アドバイザーなどの非監査業務を経験。
- 2014年シニア昇格。上場企業や複数の会社法監査の主査、各種非監査業務、IPO業務に携わる。
- 2018年マネージャー昇格。大規模クライアントのコンバージョン、監査マネージャー業務に従事。間接業務にも注力し、建設セクター執行メンバーとして社員サブリーダー、監査・会計WG長を務め、セクターナレッジを社内浸透。
- 2022年シニアマネージャー昇格。EY各サービスラインと連携してクライアントをサポート。
- 2024年海外駐在(台湾)。現在、中国語習得にも注力。

Y.Kawaguchi

2011年入社
EY台湾事務所(出向)
シニアマネージャー

2011年入社。大学時代、専門知識をもってさまざまな企業に関与することに魅力を感じ、会計士を目指す。台湾駐在はオン・オフも非常に刺激的。親切で温かい台湾の人々にも支えられ、2人の子供たちは現地の小学校、妻は現地の大学で学び、家族共に台湾の文化を存分に楽しんでいる。休日は家族と台湾の美しい山や海に足を伸ばし、台湾を満喫している。

自らの可能性を広げる、台湾での新たな挑戦

経営の最前線と切磋琢磨するチャンスがここにある

EY台湾ではジャパンビジネスサービス(JBS)に所属しています。JBSの主な役割は、日系企業の会計監査や税務をはじめとした企業運営全般のサポートです。私自身は約100社の日系企業を担当し、日本と台湾の会計監査実務、文化や商習慣の違いも踏まえ高品質なサービス提供に努めています。同時に、新規顧客開拓や既存顧客への新規業務提案も行っています。セミナー開催やニュースレターなどの情報発信も営業努力の一環です。半導体関連などの製造業、再エネ事業、小売、不動産といった多様な業種のトップマネジメントと日々直接向き合い、経営に関わる深い議論を重ねる機会があります。このような環境に身を置けることが、大きな刺激とやりがいです。さらに、近年増加している台湾から日本への進出案件サポートのため、JBSとして新たな取り組みの導入をリードしています。

海外駐在で次のステージへ

海外駐在は、キャリアの延長線上で次のステージに



進むために必要だと考えました。入社以降、さまざまな業界の監査業務、非監査業務やIPO業務、加えて書籍執筆など、仕事の幅を広げてきました。さらに強化したいと思ったのは国際的な対応力や営業力です。EYにはこれらの能力を伸ばすフィールドがあります。駐在先は、業務が幅広く経験できる東南アジア、特に長期成長を続ける台湾を希望。現在は、台湾のダイナミックな市場で、数多くの企業トップと直接関係を築きながら、自身の成長を日々実感しています。このように入社以来、常にチャレンジの機会を与えられ、キャリアの岐路では迷うこともありましたが、そのたびにまわりのメンバーが背中を押してくれました。挑戦を支え合うカルチャーがEYには根付いています。今は自分がそのバトンを次に渡す番。共に挑み、共に成長できる仲間を、心から歓迎します。

EY台湾事務所

EYは、世界150以上の国と地域に約40万人を擁するプロフェッショナルファームのグローバルネットワークです。EY台湾事務所は、そのうちの一つの組織です。6つの拠点及び約2,300名の専門スタッフにより、台湾域内全土をカバーし、多様なサービスを提供しています。

Round-Table Discussion

若手メンバー座談会

EYで切り開くキャリア、多様な経験が会計士としての成長を促す

EY新日本は、一人一人の興味や意欲を大切にします。思い描いたキャリアに向かって自ら手を挙げれば、多様な業務にチャレンジできる環境が魅力です。異なる分野で活躍する若手メンバー3人が、EY新日本だからこそ実現可能だった、入社後の充実した歩みを振り返りました。



T. Kashiwagi

2019年入社
金融事業部
シニア

ビジネス社会における共通の言語である会計を武器に、グローバルな環境で信頼される人材を目指したいと考え、大学入学と同時に公認会計士試験の勉強を始める。大学2年生で公認会計士試験に合格し、会計+αの専門性とグローバル対応力を求めて、学生非常勤として金融事業部へ入社。シニアでシンガポール駐在を経験。現在は大手都市銀行を担当。旅行が趣味で、国内問わず各地を訪れている。



N. Kawashima

2021年入社
企業成長サポートセンター
シニア

若くても専門性を生かしてクライアントと対等に議論ができることに引かれて、会計士を目指す。大学3年生で公認会計士試験に合格、大学卒業後に大手証券会社に就職。その後、公認会計士としての業務経験を求め、人を大切にする組織風土の良さを感じていたEY新日本に転職。趣味はグルメ、サウナ、ゴルフ、筋トレ。



M. Ito

2018年入社
FAAS事業部
シニア

通っていた大学が資格取得に力を入れていたのをきっかけに、会計士の仕事に興味を持つ。大学3年生で公認会計士試験に合格、地元の浜松事務所に学生非常勤として入社。7年目にモビリティ制度を活用して、アドバイザリー部門であるFAAS事業部に異動。ジャズ鑑賞が趣味でライブにも足を運ぶ。

業務内容と社風が入社動機 早くから責任ある仕事に従事

Kashiwagi まずは、入社動機から話しましょう。私は、自分の強みを持ち、それが市場で評価され続けるキャリアを築きたいと考えていました。EY新日本は、就職活動の中で特に興味をもった法人で、金融業界に強みがあり、グローバル展開している大規模クライアントを数多く担当していることが決め手になりました。

Kawashima 私は学生時代から「社会にインパクトを与える仕事をしたい」としており、特にスタートアップ企業の支援に関与したいと思っていました。前職でもIPO支援に携わっていたのですが、よりクライアントに近い立場で、自分の知識を役立てたいと考えて、国内外でIPO支援の実績が豊富なEY新日本に転職しました。社員の皆さんが生き生きと仕事をしている様子も印象的でした。

Ito 私がEY新日本を選んだ一番の理由は、大手監査法人で唯一、地元の浜松に事務所があったからです。また、浜松事務所は規模が小さく、親しみやすい雰囲気であること、さまざまな業界の監査に携われることも魅力でした。

Kashiwagi 入社してから、「イメージと違った」というようなことはなかったですね。予想に反してうれしかったのは、早くからさまざまなチャレン



ジの機会を与えられたこと。いわゆる下積み期間がもっと長いのではないかと思っていたんです。でも、実際には若い年次からリーダー業務や海外駐在など、チャレンジングでやりがいのある経験を積ませてもらえました。

Kawashima IPO支援に関しても、想像以上に早くから、深く関与できました。組織風土の点では、フラットで風通しが良いことを再認識しました。上司や先輩とも距離が近く、若手でもしっかり意見を聞いてもらえます。

Ito 私の場合、学生非常勤として入社した時、同期の常勤スタッフと比較して業務の幅が制約されるのではないかと思っていたのですが、常勤スタッフと同じような業務に携わることができたのが良い意味でのギャップでした。質問や相談のしやすい雰囲気は入社前後で変わりませんでしたね。



興味がある分野で キャリアを築くやりがい

Kashiwagi 現在の仕事の話をする、EYシンガポール出向から帰任後は、大手都市銀行の監査業務を中心に従事しています。中でも、銀行業のメインである貸出金・貸倒引当金関連のリーダーとして、15名ほどのチームをリードしています。また、近年議論が進められている金融商品会計基準改正に関するプロジェクトやアドバイザリー業務にも携わっています。

Kawashima 企業成長サポートセンターでIPO支援を専門に行っています。現在は、日本経済にとって非常に重要な役割を担うスタートアップ企業の案件も担当させてもらっていますし、監査では主査業務も務めています。また、IPO準備企業の開拓や案件獲得のための営業活動にも携わっており、セミナーの開催やカンファレンスへの参加など、外交的な活動もしています。

Ito FAAS事業部に所属して、組織再編の会計上の論点に関する相談対応や財務諸表作成支援、IFRS導入支援を担当しています。FAAS事業部への異動前は監査業務に従事しており、財務諸表を第三者の視点から見ると立場でした。一方、FAAS業務では、財務諸表を作成するクライアントと同じ視点に立つことが求められるため、視野が広がり、面白さを感じています。お二人も希望していた仕事に就いて充実している様子ですが、それぞれの分野でやりがいはどのようなところに感じますか？

Kashiwagi 金融は全ての会社で切り離せない要素であり、金融機関とも関わりながら得た知識・経験は、今後多くの分野で生かしていけると実感しています。また、海外展開している企業も多いため、海外駐在の機会も多くあります。私は早い段階で海外駐在の機会をもらいましたが、

日本に帰ってからもその経験を監査業務にも生かすことができています。専門性と自らのグローバル対応力を高め、日本にとどまらず、幅広いステークホルダーに自身の仕事の影響していることを感じられるのがやりがいになっています。

Kawashima IPO支援では、会社が上場という大きな節目を迎える中で、経営者や担当者や議論を重ね、信頼関係を築いていく過程に大きなやりがいを感じます。企業の成長ストーリーの一部を担っている手応えが感じられます。

若手の挑戦を応援 成長を後押ししてくれる風土

Ito これまでで最大のチャレンジはなんでしたか？ 私にとっては、事業部間や地区事務所間で異動ができるモビリティ制度を利用して、浜松事務所からFAAS事業部に異動したことです。でも、業務内容が変わったことに加え、東京事務所に人がいない、東京に住むこと自体が初めてなど、不安なこと実は少なくありませんでした。

Kashiwagi 私の場合は、大学卒業後、2年目にシンガポール出向に挑戦したことです。まずぶつかったのは、言葉の壁でした。英語は勉強していましたが、現地では違ったアクセントや言い回しが使われていて、出向初日から現地メンバーとコミュニケーションが取れず、激しく落ち込みました。監査業務に加えて、アドバイザリー業務もほぼ初めて担当することになり、最初は戸惑いの連続でした。

Kawashima 私にとって最大の挑戦は、若手の時期に任された上場準備企業の主査業務です。会計基準や内部統制が整備されていない企業で、監査業務を進める上での経験もない中、クライアントと膝を突き合わせて協議を重ねました。あらゆる事象に対する会計方針の検討から、内部統制の構築支援まで、クライアントとゼロベースで一つひとつ進めていく必要がありましたが、上司が要所所で支えてくれて、最後までやり遂げることができました。

Ito 私の場合も、浜松事務所とFAAS事業部の双方で、多くの人に親身になってもらったことで、もろもろの不安は解消され、前向きな気持ちを維持することができました。EYには若手の挑戦を応援してくれるカルチャーがありますよね。

Kashiwagi EY新日本全体に、人を育てようと

する風土があります。シンガポールでも、私の奮闘を周囲がしっかりサポートしてくれたので、心強かったですし、最終的には一回りも二回りも成長できた実感があります。

Kawashima しかも、失敗を責めるのではなく、そこから学ぶことを大切にしてくれます。困った時に必ず相談に乗ってくれる上司や先輩には、実務だけでなく精神的にも助けられています。

Ito カウンセリングファミリーという制度もあります。事業部ごとに運営方法は多少異なるかもしれませんが、オープンに相談ができる場として活用されています。



入社を考えている 皆さんへのメッセージ

Kashiwagi 好奇心と向上心が強く、積極的に挑戦する姿勢があれば、若い年次からさまざまな経験をさせてくれる、チャレンジングで魅力的な環境が用意されているのがEY新日本です。私自身、帰国子女ではありませんが、若くして海外駐在という機会に恵まれました。そんな環境を求めている人はぜひ、飛び込んでみてください。

Kawashima EY新日本には、さまざまな個性を持つメンバーがそれぞれの個性を生かすことで付加価値を最大化する文化が根付いています。個性を生かせる多様な機会が広がっているので、自分の個性に自信を持って入社してください。

Ito 私は当初はどちらかといえば受け身で、具体的な方向性も決まっていませんでした。でも、一步踏み出して挑戦してみると、世界が大きく広がりました。EYでは、「やってみよう」と決めたら、多くの人が力になってくれます。

Kashiwagi・Kawashima・Ito 私たちも皆さんの力になります。一緒に成長しましょう！



Work-Life Balance

多種多様な働き方

EY新日本では、誰もが自分らしさを大切にしながらキャリアの道を歩んでいます。ライフイベントとの両立の仕方は人それぞれであり、そうした多様性こそがEY新日本の魅力です。EYでは、異なる個性、人生観、ライフステージを持つ多様な人々が能力を最大限に発揮できる「自分らしい働き方」の実現に向けて、制度の充実を図っています。ワークライフバランスの実現は、業務の生産性向上と相乗効果を生むことが期待できます。真のプロフェッショナルとして、単なる労働時間の短縮にとどまらず、働き方の「質」を変えていくことを目指しています。あなたもEY新日本で自分らしい働き方を見つけてみませんか？

柔軟な勤務制度

■ リモート勤務制度 (在宅勤務制度)

EY新日本では、多様な働き方のニーズに応えるために、リモート勤務制度があります。その日の業務内容に合わせてオフィス、リモート勤務、クライアント先など、上長と相談しながら勤務場所を決めることができます。リモート勤務制度を利用することで、通勤時の負荷が減り、生産性の向上だけでなくプライベートな時間も確保できるため、ワークライフバランスを保つことができます。

■ 中抜け勤務制度

1日の所定時間(通常7時間)の始業の前後の時間に充当することで、所定時間の間に業務を中断し私用で、「中抜け(2時間以内)」をすることが可能な制度です。この制度は、リモート勤務や選択シフト勤務との併用も可能であり、例えば、子どもの学校などの用事や役所や銀行の手続きで、日中の時間に抜けたいときなど、この制度を活用することで実現可能となります。柔軟な働き方からさらに一歩進んだ、自分自身のワークライフバランスを積極的に設計できる制度です。

■ 選択シフト勤務制度

1日の所定勤務時間(通常7時間)のまま、業務上の必要性を前提として、自らの判断で複数の勤務パターンから執務時間を選択できます。真のプロフェッショナルとして、単なる労働時間の短縮にとどまらず、働き方の「質」を変えていくことを目的としています。



育児支援施策

■ フレキシブルワークプログラム

小学生以下の子どもを持つメンバーは、育児と仕事の両立を図るため、短時間勤務(1日5時間以上)、日数低減(週3日または4日)、時間外勤務等免除を選択することができます。なお、短時間勤務と日数低減は一部組み合わせて利用することも可能です。

■ 育児コンシェルジュ

仕事と育児の両立支援策の一環として、「育児コンシェルジュサービス」を導入しております。妊娠中から現役ママ・パパさんの育児相談、保活まで育児に関するどんなご相談も専門のコンシェルジュが相談に応じます。

■ 育児休業

育児休業を最長で2歳まで*取得することができます。また、2回に分割して取得することもできます。
*保育園に入園できなかった場合など

■ ベビーシッター利用料補助

小学校卒業までの子どもを養育するメンバーが業務のためにベビーシッター、延長保育、病児保育などを利用する場合、利用料の60%を補助しています。

■ 妊活休暇

男女共に年間20日まで妊活休暇(無給)を取得できます。

■ 育休中のiPad貸与

2021年7月に育児休業メンバーへのiPad貸与を開始。男性の育児休業推進、同僚とのコミュニケーション、自己啓発支援、休業・復職関連の事務のデジタル化を目的に育児休業メンバーへのiPad貸与を開始しました。



Work-Life Balance



H. Kinoshita

2007年入社
第2事業部
マネージャー

「あなたのペースでいいんだよ」 その言葉に感謝の気持ちでいっぱいです

長女の出産に際して1年半ほど休職し、その後復職したものの夫に帯同して渡米することに。「配偶者帯同休職」という制度のおかげで退職せずに済んだことはありがたかったです。米国で長男を出産し、帰国後は過酷な“保活”を乗り越えてEY新日本に復職。自分のペースで徐々に業務量を増やしていきました。現在は「フレキシブルワークプログラム(短時間勤務等)」を利用していますが、休職中も、復職後も「あなたのペースでできることをやらしてもらえばいいんだよ」と言ってくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ブランク期間は長かったですが、私という人間をつくってくれた大切な経験ができました。EY新日本という大きな組織を支えているのは、メンバー一人一人です。これからもバランスを取りながら自分のペースでキャリアを積んでいきたいと思っています。



沖縄旅行で泊まったホテルのお馬さんです。お出かけ大好き家族なので、週末も長期休みもアウトドアが多い我が家です。

Voice

子どもたちの幼稚園に恩返しをとの思いから、PTAの役員をすることにしました。新しい価値観や世界を知ることができ、何でも挑戦してみるの大切さだと感じています。

上司、同僚からの後押しが心強い 男性メンバーの育休取得は一般的



娘が1歳になりよちよちと歩き始めるようになりました!休日は公園に行くなど、家族との時間を大切に仕事で疲れを癒しています!

第1子誕生に際して、2024年4月から6月の約2カ月間、育児休業を取得しました。業務のピーク時期と重なりましたが、相談した上司や同僚に後押しされ、個人の生活環境や価値観を尊重する文化が社内に根付いていることを再認識しました。実際、EYでは近年、男性が1-2カ月程度の育児休業を取得するのはごく一般的で、中には1年取得する人もいます。育休中はおむつ替え、ミルクづくり、寝かしつけなどはもちろん、離乳食づくりや沐浴・入浴など、授乳以外は一通り分担できたと自負しています。それによって家族の絆も深まり、今も家事と育児は分担するのが習慣になっています。また、育児の大変さを実感することで、女性の社会復帰支援の重要性も理解できました。現在は週の半分程度の在宅勤務を活用し、育児と仕事の両立を図っています。

Voice

仕事がどれほど大事でも、「ワークライフバランスを優先したい」と思う場面は、誰の人生にも必ず訪れるもの。その思い、EYでは当然のこととして受け止められます。

EY | Building a better working world

EYは、クライアント、EYのメンバー、社会、そして地球のために新たな価値を創出するとともに、資本市場における信頼を確立していくことで、より良い社会の構築を目指しています。

データ、AI、および先進テクノロジーの活用により、EYのチームはクライアントが確信を持って未来を形づくるための支援を行い、現在、そして未来における喫緊の課題への解決策を導き出します。

EYのチームの活動領域は、アシュアランス、コンサルティング、税務、ストラテジー、トランザクションの全領域にわたります。蓄積した業界の知見やグローバルに連携したさまざまな分野にわたるネットワーク、多様なエコシステムパートナーに支えられ、150以上の国と地域でサービスを提供しています。

All in to shape the future with confidence.

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは ey.com/ja_jp/about-us/ey-shinnihon-llc をご覧ください。

© 2025 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp